

---

倉敷市真備町  
岡田地区・辻田地区  
地区防災計画

---

令和4年(2022年)12月  
倉敷市真備町  
岡田地区まちづくり推進協議会

## 災害に強い岡田にするために

岡田地区まちづくり推進協議会では、2012年から防災研修会を開催するなど災害に強いまちづくりに取り組んできました。しかしながら、西日本豪雨(2018年7月)により岡田地区は大きな被害を受けました。「あの日何があったのか、何をしていたのか、何をしなければならなかったのか」その答えを探すために2018年10月に「岡田を災害に強いまちにする会」を立ち上げ、一人でも多くの人の声を聞くためにアンケートや聞き取り調査を行い、その結果を「にげる」「いきる」という冊子にまとめました。さらに、災害に強い岡田にするために、2021年7月からは地区防災計画の策定に取り組んでいます。災害を経験したわたしたちが、今取り組まなければならないのは「誰ひとり取り残さない」防災です。そして、その取り組みを進めるには、地域のみなさん一人ひとりの思いと協力が必要です。これからの岡田を守っていくために、今私たちができることから始めましょう。

## 防災の種をまき、防災の花を咲かせましょう

岡田地区まちづくり推進協議会

## 目次

### 岡田地区・辻田地区地区防災計画

1. 目標 4
2. 防災係 4
3. 地区における防災の取り組みの進め方 6
4. 地区避難マップ(西日本豪雨災害の浸水域(岡田地区)に基づく) 10
5. 防災研修会の実施について 11
6. 年間活動計画 11
7. おわりに 12

### 各地区の取り組み事例

1. 新町南自治会 14
2. 堂応寺自治会 15
3. 新町自治会 17
4. 反田自治会 18
5. 森(旧森・新森)自治会 19
6. 第2辻田自治会 20
7. 馬場団地自治会 21

## 1. 目標

---

# みんなで声をかけあう災害に強い地域づくり

## 2. 防災係

---

### ○防災係の役割

### 地区※の防災の推進と連絡担当

※対象地区は表1の通り

○防災係は以下の3種類があり、年度当初に決める。

・岡田地区防災係

岡田地区まちづくり推進協議会役員・各種団体より選出された者・防災に関心がある者の中からあてる。

・第1～6地区ブロック防災係

岡田地区まちづくり推進協議会の役員であてる(当面)。

地区で自主的に防災係を決めることができる地区は自主的に決める。

・小地区・団地(自治会)防災係

地区ごとに相談して防災係を決める。

### ○地区災害対策本部

#### 1) 本部員

岡田地区防災係であてる。

#### 2) 設置場所

- ・水害時は岡田小学校(指定避難所)に設置予定
- ・水害以外の時は岡田分館(指定避難所)に設置予定

#### 3) 活動内容

##### ① 避難情報収集と情報共有

- ・地域の被災情報(浸水、家屋倒壊、道路の通行可能性など)
- ・地域住民の避難状況
- ・避難場所の確認

##### ② 災害後の情報収集と情報発信

- ・地域住民への支援等に関する情報(災害ボランティア、被災者支援制度、行政からの案内、物資など)

表1 地区防災計画対象地区\*

岡田地区防災係名					
地区ブロック番号	地区ブロック防災係名	地区名	地区防災係名	世帯数	回覧数
第1地区  * 地区数 14 * 世帯数 265 * 回覧数 19		中町上		23	2
		中町下		10	1
		上町1		24	2
		上町2		34	2
		上町3		34	2
		新町1		15	1
		新町2		19	1
		新町3		16	1
		新町4		11	1
		新町中		9	1
		新町南		39	2
		高下田		9	1
		横通		10	1
		岡田公園西		12	1
第2地区  * 地区数 9 * 世帯数 193 * 回覧数 11		内沼		10	1
		大池東		16	1
		大池新田		51	2
		大池新田			
		桜西		18	1
		桜東		19	1
		馬場		22	1
		山の谷西		30	3
		山の谷東		27	1
		第3地区  * 地区数 8 * 世帯数 125 * 回覧数 8		五反田	
五反田				18	1
第二辻田				18	1
第二辻田				18	1
新森				14	1
新森				10	1
旧森				9	1
北沼				16	1
第4地区  * 地区数 6 * 世帯数 124 * 回覧数 10		石田西		21	1
		堂応寺		16	1
		西の谷		21	2
		池田		20	4
		池田			
		中縄手		46	2
第5地区  * 地区数 7 * 世帯数 222 * 回覧数 14		東真備		65	5
		東真備			
		蒲池		42	2
		向畑		45	2
		辻田東		19	1
		蒲池北		10	1
		市川		41	3
第6地区  * 地区数 8 * 世帯数 130 * 回覧数 9		辻田第一		13	1
		森		35	2
		西の床		16	1
		森南		16	1
		森南		17	1
		みどり団地		11	1
		森前		12	1
		辻田スクールタウン		10	1
* 地区数 52 * 世帯数 1059 * 回覧数 71					

### 3. 地区における防災の取り組みの進め方

#### 防災の取り組みステップ (できるところから進めましょう)

- ステップ1 各地区・団地ごとに防災係を決めましょう
- ステップ2 隣組を決めましょう(3軒～5軒)
- ステップ3 声かけ開始のタイミング・避難先・避難支援方法を決めましょう
- ステップ4 いざというときの連絡網を考えましょう(電話・LINE など)
- ステップ5 地区の人が避難できるよう訓練しましょう  
\*まちづくり推進協議会実施の防災研修(避難訓練)に参加

#### ※災害発生の恐れがあるとき

避難タイミング、声かけ体制、各自の避難先は小地区・団地別に話し合っておく。

\*話し合いの形式等は、それぞれに任せる。

例)電話・声かけの場合(連絡網をつくっておく)

「小地区・団地防災係」→「班<sup>\*</sup>」→「隣組」

※小地区・団地内地区(班、地区、ブロックなど)

LINE の場合

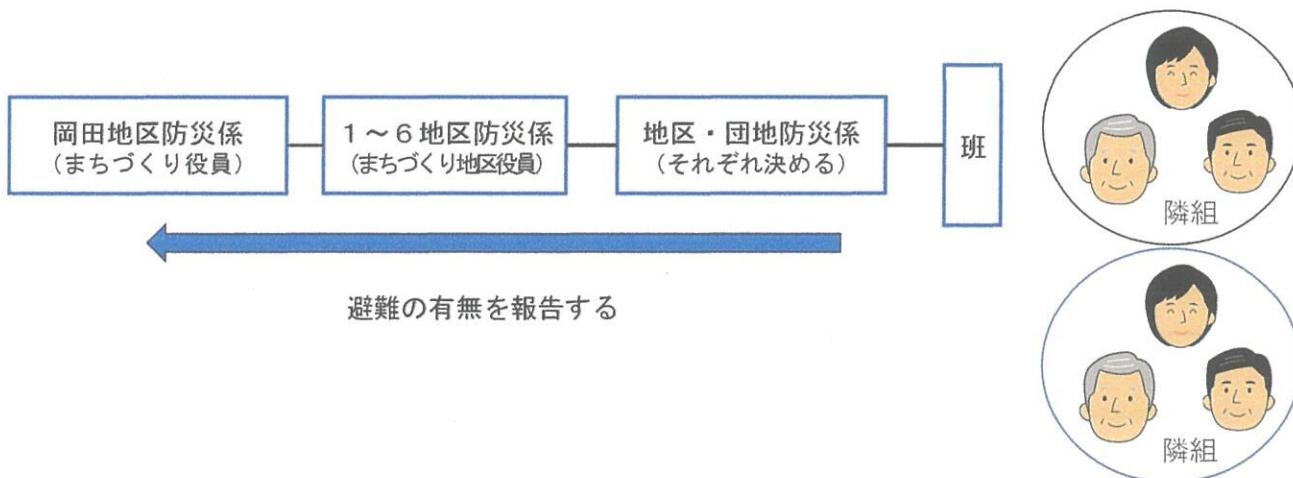
「小地区・団地防災係」→「地区の人」

#### ※避難終了後

避難したか否かの情報は地区別に電話/LINE/対面で集約し連絡する(様式1)

「隣組」→「班」→「小地区・団地防災係」→

「地区防災係(1～6地区)」→「岡田地区防災係」に連絡する。



## 災害時避難計画

町（団地）

年

月

日

	世帯者名	世帯 人数	連絡先 (TEL/e-mail)	避難先（予定） 岡田小/知人宅/在宅避難 等
1				
2				
3				
4				
5				
6				
7				
8				
9				
10				
11				
12				
13				
14				
15				
16				
17				
18				
19				
20				
合計	戸	名		

\* 本名簿の世帯人数は令和4年 月現在 地区に居住している人数。

## 災害時避難状況チェック・リスト

町（団地）

年

月

日

時

分

	世帯者名	世帯 人数	避難有無 の確認✓	避難先 (岡田小/知人宅/在宅等)	備考
1					
2					
3					
4					
5					
6					
7					
8					
9					
10					
11					
12					
13					
14					
15					
16					
17					
18					
19					
20					
合計		戸	名		

\* 本名簿の世帯人数は令和4年 月現在 地区に居住している人数（毎年更新すること）

## ○避難・声かけのタイミング(大雨)

○岡田地区は浸水被害が想定される地域です。大雨の時は、倉敷市の避難情報(避難指示/高齢避難)、気象庁(キキクル)で情報を確認し避難しましょう。

- ・ レベル3が出た時:近所の気になる人(支援が必要な子育て世代・妊産婦・高齢者・障害者)に連絡する。  
**近所力で把握しておこう!**
- ・ レベル4が出た時:立退き避難が必要な人に連絡する。



それぞれの**警戒レベル**に相当する情報を、**早めの避難行動の判断**に役立ててください。  
市町村からの**避難指示等の発令に留意**するとともに、避難指示等が発令されていなくとも**自ら避難の判断**をしてください。  
警戒レベル5は、すでに安全な避難ができず命が危険な状況です。**警戒レベル3や4の段階で避難することが重要**です。

警戒レベル	住民がとるべき行動	市町村の情報	警戒レベルに相当する 気象庁等の情報		
			警報等	キキクル (危険度分布)	指定河川 洪水予報
5	<b>命の危険 直ちに安全確保!</b> ・すでに安全な避難ができず、命が危険な状況。いまいる場所よりも安全な場所へ直ちに移動等する。	<b>緊急安全確保</b> ※必ず発令される情報ではない	<b>大雨 特別警報</b>	<b>災害切迫</b>	<b>氾濫発生情報</b>
<b>&lt;警戒レベル4までに必ず避難!&gt;</b>					
4	<b>危険な場所から 全員避難</b> ・台風などにより暴風が予想される場合は、暴風が吹き始める前に避難を完了しておく。	<b>避難指示</b>	<b>土砂災害 警戒情報</b>	<b>危険</b>	<b>氾濫危険情報</b>
3	<b>危険な場所から 高齢者等は避難</b> ・高齢者等以外の人も必要に応じて、首段の行動を見合わせ始めたり、避難の準備をしたり、自主的に避難する。	<b>高齢者等避難</b>	<b>大雨警報※ 洪水警報</b>	<b>警戒</b>	<b>氾濫警戒情報</b>
2	<b>自らの 避難行動を確認</b> ・ハザードマップ等により、自宅等の災害リスクを再確認するとともに、避難情報の把握手段を再確認するなど。		<b>大雨注意報 洪水注意報</b>	<b>注意</b>	<b>氾濫注意情報</b>
1	<b>災害への心構えを 高める</b>		<b>早期 注意情報 (警報級の 可能性)</b>		

※ 夜間～翌日早朝に大雨警報(土砂災害)に切り替える可能性が高い注意報は、高齢者等避難(警戒レベル3)に相当します。



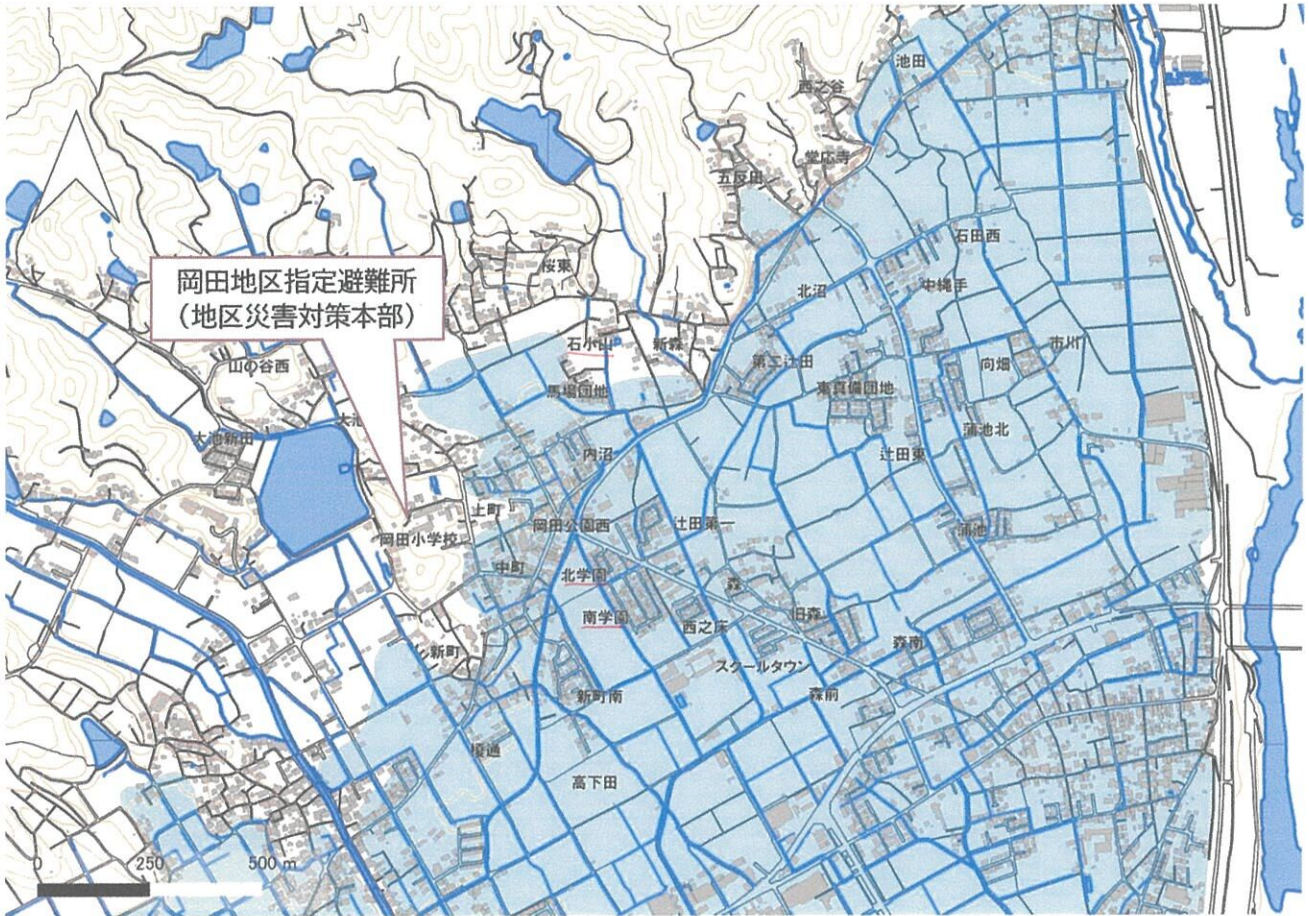
\* 防災気象情報と警戒レベルの対応の詳細については、ホームページをご覧ください。  
<https://www.jma.go.jp/jma/kishou/known/bosai/alertlevel.html>



Japan Meteorological Agency

〒105-8431 東京都港区虎ノ門3-6-9  
TEL: 03-6758-3900 (代表)  
FAX: 03-3434-9085 (耳が不自由な方向け)  
ホームページ <https://www.jma.go.jp/>  
令和4年6月

#### 4. 地区避難マップ(西日本豪雨災害の浸水域(岡田地区)に基づく)



#### 災害時の指定避難所

○洪水・土砂災害・地震・火災時

- ・倉敷市立岡田小学校 (180人)

○土砂災害・地震・火災時(水害時は利用不可)

- ・真備東中学校(水害時は緊急避難)(300人)
- ・真備公民館岡田分館(50人)
- ・真備公民館辻田分館(50人)



- ハザードマップは目につく所に貼っておこう
- ハザードマップに避難経路を書いておこう
- 避難所が目立つように印をしておこう
- 避難所の連絡先をチェックしておこう

## 5. 防災研修会の実施について

---

- ・岡田地区の全住民を対象とした、声かけ避難・避難経路確認・避難所対応等を確認するための「防災研修」を年に1回実施する(11月頃)。
- ・防災研修会実施後、アンケートの実施および反省会を実施する。課題を抽出し、課題解決に向けた検討をする。

## 6. 年間活動計画

---

- 4月 役員交代にあわせて防災係を決め、防災研修会を実施する。地区内の防災体制の確認をする。
- 5月 地区防災計画の内容の検討・見直しを行う(連絡網・マップなど)。
- 7月 西日本豪雨災害勉強会の開催(防災係対象)
- 11月 岡田地区防災研修会の開催(地域全員)
- 随時 その他研修会開催(例)ペット避難、車中泊、トイレ問題、食事など)

## 7. おわりに

いまの現状で私たちができる「防災係」「声掛け避難」「隣組」「避難確認と避難報告」の4項目を防災計画に取り上げています。

「誰一人取り残さない防災」を掲げるには、あまりにも内容が薄いと感じられるかもしれませんが、この防災計画は始まりの第一歩であり、これからみなさんと一緒に何が出来るか自分の地域に合った計画を考え作っていきたいと思っています。みなさんの手元に届きましたら、ぜひ目を通してください、そしてご意見をください。

その際、自助、共助、の視点で考えてください。地域のみならずどんなことができるか、個人ではこんなことができるなどご提案ください。

現在7つの自治会が自主防災の活動を始めています。各自治会の取り組みを別紙で紹介していますので参考にさせていただけたらと思います。取り組みができる自治会から始めてください。できることから始めてみましょう。

災害に強い岡田にするために今何かを始めてみませんか？

参考資料…防災冊子「岡田を災害に強いまちに」その2 いきる P.30

### 5. 今後に向けて私たちにできること

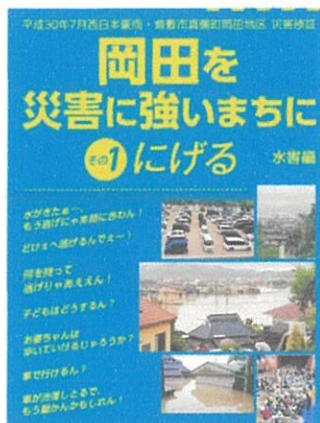
#### 西日本豪雨災害と岡田地区のこれまでの取り組み

2019年7月～2020年1月

2020年7月～2021年12月

2021年7月～

地区防災計画の策定



- 避難所対応支援
- 避難車両の誘導
- 高齢者への声かけ
- 高齢者の避難誘導
- 避難所物資の買い出し
- 避難者への炊き出し



- 被災後の暮らし
  - 避難所
  - 自主開設の避難所
  - 在宅避難
- 地域の力をあわせて
- 店舗・事業の復興
- ボランティア



# 5 今後に向けて 私たちにできること

## 今後の地域のために

この災害の体験を無駄にしないで私たちはどう取り組んでいけばいいのかをこの3年間考えてきました。「誰一人取り残さない防災」の取り組みを進めるためには、地域の皆さん一人一人の協力が必要です。では何ができるのか？ 一緒に考えてみましょう。

### 地域全体で取り組みませんか (防災の意識や知識の向上をするために)

- ・避難情報・気象情報の理解
- ・避難場所・避難経路の事前確認
- ・情報収集の方法を知る
- ・避難時に何をもって逃げればいいのか
- ・車で避難するときの注意点
- ・指定避難所以外の場所に避難する時の心構え
- ・防災訓練の実施（体験を踏まえて）
- ・水害だけでなく地震対策も考える
- ・今回の水害の状況を地図上で確認する
- ・防災マップを作る（危険箇所の確認）

### 連絡網をつくろう

- ・緊急時の連絡体制を整備する
- ・地区単位で地区住人の避難先を確認しておく
- ・LINE など SNS の活用も考える

### 地域のつながりをつくる

- ・サロン・イベントの開催をしよう
- ・日頃からの付き合いを大切にしよう
- ・向こう3軒両隣、声をかけあう関係をつくろう
- ・近所の手助けのいる人を知っておこう
- ・独居老人世帯への声掛けの機会を増やす

### 避難所で快適に過ごすために

- ・避難所内での避難者の振り分けを考えておく
- ・避難所の運営方法を行政や学校と共通認識を深める
- ・避難所運営の役割分担（避難者・支援者）
- ・妊婦さん・持病のある人の避難先を考える
- ・地域の中で他に避難できる場所を探しておく

### みんなで情報の共有をしよう

- ・災害掲示板の設置（分館・ゴミステーション）
- ・情報掲示場所を事前に共有する
- ・仕事・体調・その他見に行きづらい人への伝え方を考える
- ・仮設住宅の住民、みなし仮設の住人への伝え方を考える
- ・公民館に災害時の相談者を配置する
- ・高齢者の方に情報を伝える方法を考える
- ・住民間でお互いの地区の情報を共有する
- ・町内の情報を共有する（まちづくり連絡会）

### いつ・どこに逃げるかを考えておこう

- ・逃げられる場所を増やす
- ・徒歩で逃げられる場所・車で逃げられる場所の選定方法
- ・災害によって避難先の選定をする
- ・感染症流行時の避難所選定
- ・避難のタイミングの徹底
- ・避難先への道案内版の設置
- ・マイタイムラインを作る

### 本当に動く組織をつくろう

- ・自主防災組織を整える  
(まちづくり全体・地区と連携できる組織作り)
- ・災害被害に沿った組織を作る
- ・土木、農業各委員会や用水管理者を巻き込む

### その他

- ・インフラ整備  
避難時の移動や、物資の運搬などができる道路整備を進めるための調査をする
- ・行政と学校との連携  
1年に1回は会って意見交換をしよう
- ・地域の備蓄倉庫  
食料の備蓄契約家庭を作る  
(提供してもらうのではなく買取システム)

一人一人の力が、大切な人、ペット、思い出を守ります

## 各地区の取り組み事例

令和4年(2022年)12月時点の取り組みです。  
活動が進んでいる地区は情報を提供してください。随時更新します。

## 1. 新町南自治会 （隣組で声掛け避難） 39 世帯

新町南は真備東中学校の西側の田園地帯にある新興住宅です。全世帯が被災を受け、以前から交流が盛んだったこともあり、災害後お互いが声を掛け合い復興に力を合わせて頑張りました。集会所の再建もその一つです。防災のことを考え始めたのは被災後です。2019年の地域の防災研修の際「声掛け避難」のモデル地区になってほしいと依頼され実施したのですが、声掛けするのに多少迷いもありましたが、多くの人に参加してくれ自信を持つ事が出来ました。その後、逃げ遅れのない避難をするために役員だけが声掛けをするのではなく、3～4軒のグループ(隣組)を作りグループのリーダーが声掛けをして避難する方法を計画しています。

(＊役員が多くの人に声をかける負担をなくす事と、短時間に声掛けができる)

(今後の課題)

### 1 いつ声をかけるのか

まだ大丈夫と思っている時期に声掛けをすることで避難意識を高められるので、早めの声掛けかけをする(代表者が防災ラジオで確認、高齢者等避難・レベル3)

### 2 どこに逃げるのか

決めていない。

日頃の付き合いの会話の中で聞いてみるのも良いかも。たとえばサロン活動等で

### ③逃げた後の報告を受ける？

決めていないが、リーダーに逃げた報告ができればベスト

### ④避難状況チェック表は？

決めていない

### ⑤防災組織は？

作っていない

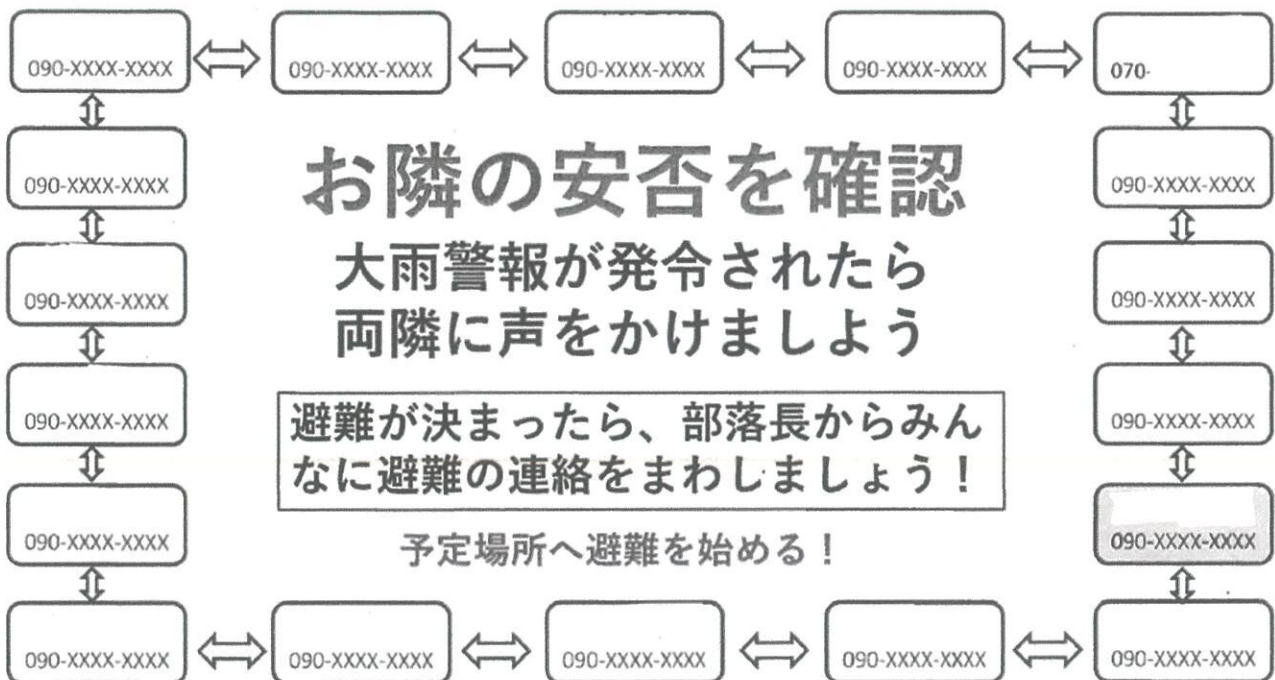
### ⑥その他伝えたいこと

39軒中半数が高齢者のいる世帯なので、毎月のサロンに参加している人が多い。サロンの場で防災の話をついとなんな形で取り上げていくことができる。

## 2. 堂応寺自治会 ((輪)サークルで声掛けをつなぐ) 16 世帯

堂応寺は高台と平地に家がある地域です。高台にある家では避難者を受け入れたり、炊き出しをしたり、送迎ボランティア等多くの支援をしました。

- ・ 高齢化率が高いこともあり防災の組織作りはできませんが、16 世帯を一つの輪でつないだ連絡網を作っています(図 1)。
- ・ 災害時には誰か不安になった人から両隣に連絡をして声掛けが始まります。
- ・ 自治会長(又は協力できる人)はチェックリストを作成し安否確認と避難状況をまとめます。
- ・ 避難メモ(家族数・連絡先・声掛けする隣人・避難先)をつかって、事前に担当者に提出してもらっていますが、変更がある場合は速やかに報告することになっています。また避難後の報告も受けることになっています(図1)。



携帯電話番号は、本人の了承を得ないまま勝手に他人に教えることは控えて下さい。

図 1 連絡網

堂応寺

水害からの避難メモ

(部落長提出用)

★ 氏名： \_\_\_\_\_ ほか、家族合計 人 / 携帯番号 \_\_\_\_\_

(携帯電話がある場合は、できるだけ携帯番号をお願いします)

★ いっしょに避難を呼びかける隣人

外に出られる場合は直接に、出られない場合は携帯電話などで  
お互いに連絡をとって、いつでも避難できるように準備しましょう。  
周りに援助の必要な方がいるかどうか確認をしてください。

★ 避難先 (あらかじめ決めておく) (避難方法： 徒歩 / 車 )

① 緊急避難場所 (堂応寺公会堂など) \_\_\_\_\_

② 指定避難場所 (岡田小学校など) \_\_\_\_\_ (徒歩/車)。

③ その他 (親戚など、できる範囲で記入)

避難先： \_\_\_\_\_ (徒歩/車)。

図2 避難メモ

\*伝えたいこと

両隣に「逃げる」ための電話をするだけでなく、不安になったら気軽に「ものすげー雨じゃなあ」  
くらいの電話をすれば、お互い逃げるタイミングの判断ができるかもしれません。

### 3. 新町自治会(集会所に防災ボード設置して避難状況を把握) 63 世帯

新町は、岡田小学校の南に位置する高台と平地にある地域で長年住んでいる家が多い。高台に住んでいる一部の方の自宅の被害はなかったが、大部分が被災を受けた。

新町自治会は 4 つの班に分かれていてそれぞれに代表がいる。

全体をとりまとめる役員が会長他 名、今年度の防災勉強会をうけ防災組織の必要性を感じ、高台の集会所を避難本部にして 63 世帯の避難状況をボードを使って確認をする計画にしている。

#### 1 誰が情報を集める

会長と役員( )

#### 2 いつ声をかけるのか

レベル4

#### ③どこに逃げるのか

岡田小・公会堂( 人可)・天理教教会( 人可)

#### 3 逃げた後の報告

班ごとに確認していく

#### 4 避難状況

チェックはボードで可能。できると思う。

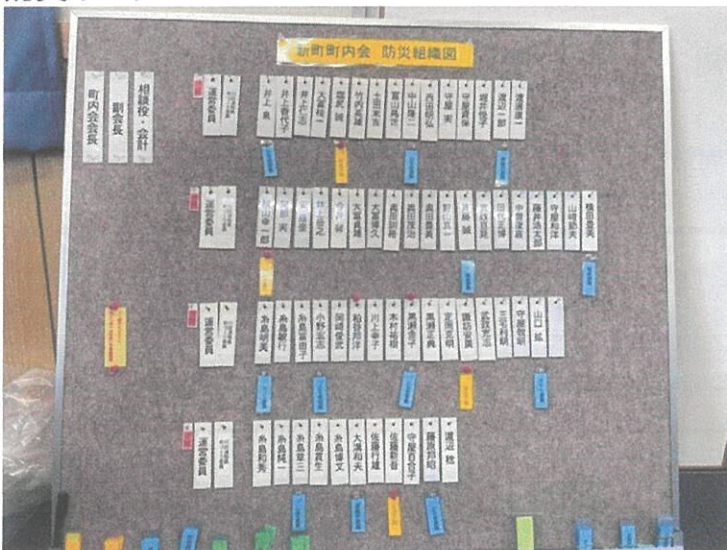
#### 5 自主防災組織

現在準備中

#### 6 その他伝えたいこと

高齢者、一人暮らしも多くなっている所以对策を考えていきたい

### 防災ボード



#### 4. 反田自治会（被災前から自主防災組織を作っていた） 40 世帯

五反田は森泉寺周辺の地区で山際の家が多く、今回は県道沿いにある家 19 軒が被災した。届け出避難所に指定していた集会所も被災した。自主防災組織は被災前の 2015 年（平成 27 年）に立ち上げた。同地区には土砂災害危険地区もある。

##### ①自主防災組織として動いたことは？

土砂災害の危険区域にある対象宅 3 軒に安否確認をした

被災後 R4.6 役員・班長会議

- ・組織の見直し・連絡方法・防災訓練について話した。
- ・担当要配慮者の氏名部分を○印表記に変更した。

## 5. 森(旧森・新森)自治会 (被災前から自主防災組織を作っていた)37 世帯

旧森は国司神社の南側周辺の地区で、9戸すべてが被災し、新森は東園神社南側周辺の地区で28世帯中11世帯が被災した。

昨今の自然災害の発生状況より、地区での自主防災組織の必要性を感じて、被災前の2016年、森(旧森・新森)地区自主防災会を立ち上げていた。しかし、災害時自主防災会としての活動は何もできなかった。

- ・ 避難誘導班としての活動、各世帯の避難状況や安否確認が早期にできなかった。
- ・ 組織としての機能は不十分であったが住民相互の交流が避難に役立った。
- ・ 今後は、自治会内の連絡網、世帯の状況、避難先など避難時に必要な情報を把握できるよう計画していきたい。

## 6. 第2 辻田自治会(被災前から自主防災組織を作っていた)36 世帯

第二辻田は森泉寺の南側の団地で36戸すべてが被災した。自主防災組織の結成は被災前。今回どんな行動がとれたか、何ができたか検証する。

### ①自主防災組織として動いたことは？

防災組織ができて、毎年防災組織図は更新していたが、訓練や話し合いなどはしないまま防災組織が形だけのものになっていた。

被災時防災組織会長(その年の団地町内会会長が当たる)は十分な情報が得られず動くことができなかった。組織は作っていたが何もできなかった。

### ②いつ声をかけるのか

早期に避難するための声かけができなかった。

2階に大勢取り残され救助された。

要配慮者の声かけ、支援もできなかった。

### ③自主防災組織の発足の経緯は

町内会の総会で懸案事項をして出されていたので市の説明を受け組織を立ち上げた。

## 7. 馬場団地自治会

馬場団地は千光寺前の地域。被災あと防災の勉強会を設け参加した。このくらいであれば、何かできることがあるのではないかと思い、団地の掃除のときに皆が集まった席で話してみた。声掛け避難の活動をしてみてはどうかということ話をした。

結果、現在グループ分け(隣組)を作ることができた。これで一歩踏み出した。